

高南中学校 CS だより

(杉並区立高南中学校 学校運営協議会広報紙 令和4年3月発行)

今年度の学校運営協議会

校長 川上 智

委員の皆様には、常に「どのような子供に育てほしいのか」「どのような学校であってほしいのか」を念頭に、「そのためにはどうするのか」を考えご発言をいただきました。高南中とその地域を十分に理解されているが故に「高南中だからこそできること」について沢山のご助言もいただきました。学校の育てたい子供像、目指す学校像の構想を受け止めていただき、委員の皆様にはそのビジョンをもとに、学校に関係するすべての方々と学校が、共に進むための歩みを力強く支援していただきました。この一年間の熟議に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

学校行事の全てが実施できた！

高南中学校学校運営協議会会長 堀内 一男

高南中学校の「学校運営協議会」(コミュニティスクール=CS)は、指定を受けてから2年半になります。この間、多くの卒業生や地域の想いを大切に、コロナ禍を克服し生徒たちが安心・安全に学べる学校づくりに邁進されている先生方に感謝しながら、学校を支援して参りました。

特に今年度は、運動会、修学旅行、合唱祭、スキー教室等々中学校生活の思い出の核になる諸行事の全てが、先生方の工夫とご努力で実施できました。こんな嬉しいことはありません。

学校運営協議会の協議内容の全てを報告できませんが、会の雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。



令和3年度 学校運営協議会委員

今できることを工夫して全力投球を

令和3年度は10回の協議会を予定しました。しかし、コロナ禍との関係で中止が1回、内容変更や行事参観を含め11回の協議会を実施しました。11人の委員それぞれの印象深い協議と活動内容をまとめました。

心に残る修学旅行

校長 川上 智

当初、予定されていた修学旅行は5月下旬。感染症拡大により9月上旬に延期されましたがさらに延期。宿のご好意によりキャンセル料が発生しなかったため、やっと10月中旬に修学旅行に出かけることができました。



コロナ禍にあって、修学旅行に我が子を参加させることに、多くの保護者の皆様が不安を感じられていたと思います。私もそうでした。

しかしながら、修学旅行の教育的意義を考えた時に、また、なによりも学校生活や日常生活の様々な場面で、スキー教室にも行けず1年生の3月からずっと我慢を強いられてきた中、修学旅行への期待など、私はその子供たちの心情を推し量ったとき、感染症対策をしっかりとして修学旅行に行くことに決め、度重なる延期を経て実施に至りました。

修学旅行から無事帰ってきた子供たちが、皆一様に楽しかった、行くことができて良かったと言ってくれた時には、とても嬉しかったです。

帰りの新幹線が事故により2時間近く遅れました。当初、子供たちは京都駅で買い物をする時間が増え喜んでいましたが、やっとの思いで乗り込んだ車内ではとても疲れている様子でした。東高円寺の駅に着いたのは午後9時を回っていたと記憶しています。

校長として9回目となるこの修学旅行の、企画段階から終了までのすべてが、私にとって最も心に残る修学旅行であり、忘れることのない修学旅行となりました。

久しぶりの中学生

江口 幸子（梅里一丁目町会会長）

校内に入るとスロープと階段の先に玄関があります。私はこの眺めが好きです。校舎内にはいると子供が元気よく心地よい挨拶をしてくれます。高南中の生徒さんの好感度は気持ちを和ませてくれます。



学校は学びの場と共に集団生活の中で、道徳・社会のルール・多様性など、子供一人ひとりの個性、価値観が違う多様な子供たちが互いに認め合い、心豊かな居心地の良い居場所として学校生活を送ってほしいと願っています。

昔と違い今は学校と地域が一体となっています。学校をサポートする体制も整っていますが難しさもあるのでは…と思います。

中学生の年齢は心身共に著しく成長します。そんな子供を学校、家庭、地域が同じ方向を向いていくことが子供の人格形成を育んでいくと思います。

コロナによって奪われたものは沢山あるかと思いますが、コロナ禍でこれまで経験してこなかった対応、色々な制約が課されている中で、学びを止めることなく、子供たちにできる限りの教育と体験を作っていただいていることに感謝いたします。

道徳の授業

木村 房代（学校支援本部高南会）

11月の学校公開日に道徳の授業を参観しました。

1年、2年と参観して回り3クラス20分ずつ見ようと欲張ったために中途半端に終わってしまい後悔しています。1つをじっくりと参観しないと結果がわからないと思いました。道徳の授業は教科書があり各学年にテーマと題材が与えられていて先生がそれに沿って授業を進めていく、というものでした。道徳といえども各クラス、先生のカラや雰囲気も顕著に出て、テーマの切り口や導入によっては自分のこととして考えることができたり、導入が難しいと生徒の反応が低かったりして盛り上がりなかつたりするので難しいなと思いました。道徳はこれが正解というものがないので担任として生徒と向き合う中で、心の交流を軸に素直な気持ちをどれだけ引き出せるか、ということにかかっていると思いました。

また時には、道徳は先生にとって専科ではないから学年の副担任の先生も入って行えば、担任一人では拾えない生徒のいろんな意見を引き出したりくみ取ったりできるし、テーマを共有できる良い機会になるのではないかと思います。



部活動を見つめて

小林 三津子（利用者団体協議会会長）

年は改まってもなお感染症の脅威は続き新型コロナウイルスが世の中を揺り動かした。その影響は21年度の全国体力テストの東京の中学生は、男子46位、女子42位と体力低下の数値。男女ともに全国平均を下回り順位を下げている。コロナの影響だけの問題ではすまされない気がするが現実はどうだろうか。

その時の生徒数で部活も変化し、バレーボール・バドミントン・野球がなくなり、人気のバスケット・卓球・



躍進めざましいソフトテニス、区の新人戦や関東大会出場と正門玄関の垂れ幕にも表れている。

また、近隣の地域活動には楽しい演奏を届ける元気で明るい吹奏楽部は、毎年20数名平均の人数でコンクールに出場し素晴らしい成績を収めている。それぞれの部活動が様々な形で幅広い分野に飽くなき好奇心を持って挑戦し、健康で心と体の健全な成長を願いつつ、体力を付けて順位を上げて欲しい。

工夫のあった運動会

志達 和雄（和田三丁目東町会会長）

6月5日の運動会は前夜の雨が上がって、運動会日和にはなりませんが、コロナの「緊急事態宣言」下での挙行は、会場準備も競技方法も難題が山積だったはず。この難題解決のために、全校が一丸となって知恵を絞る努力を重ねたことが、記憶に残る素敵な運動会の実現に導きました。

1つの競技に全校生徒をクラス対抗の形で参戦させた工夫は、自分自身は走るのが苦手でも、「級友と一体での責任は果たす」行動意識と頑張りには直結したはず。

例年はお祭り行事的印象の運動会が、今年は感染回避の厳しい制約下で開催されたことで、運動会の行事目的の原点に立ち還ったような、清々しい好印象が残りしました。競技毎に見学席の入れ替えで、父兄にもご不便をお掛けしましたが、この人数制限がフェンス越しの近隣住民見学者を大勢招く結果になって、高南中が地域の皆さんに見守られている証左だと、確信できて嬉しかったです。

学校支援本部「高南会」の活動

豊川 充子（学校支援本部高南会本部長）

今年度の「高南会」の事業は、英・数・国等の学力補充、学期末テスト対策自習室、土曜授業支援、英検・漢検・数検の実施と試験監督などを行ってきました。年度初めに、先生方と前年度の課題や、今年度の重点内容などを確認して事業内容を考えると共に、多くの生徒が参加してくれるようにそれぞれの内容を確認しています。また、講師をお願いしている外部講師や学生ボランティアと協議をして、生徒が質問しやすい雰囲気作りを心がけています。おかげさまで集中して取り組む生徒、よく質問する生徒、生徒同士で教えあう姿が多く見られます。一方気になる点としては、2年生になると参加人数が減少することや本人の意思で申し込んだのではないためか集中力が続かない生徒が見受けられます。「高南会」としては、これからも生徒自身が学習に興味を持ち、自信を持って学び、学習面以外でも個々が自立できるようにサポートを続けて参ります。



新ホームページと専用タブレット

増田 由巳子（青少年委員）

4月の運営協議会で、学校のホームページが担当者を中心にリニューアルされたことを伺いました。新しいホームページは、「最近の出来事」が写真と共に掲載され、生徒の様子などわかりやすく伝えられており、コロナ禍で来校が制限される中、「情報を発信していく場」として活用されています。また、「GIGAスクール構想」で2023年度を目途に進められていた「一人一台端末」がコロナ禍による臨時休校でオンライン授業の必要性が高まったことから、3年前倒しして配備されました。GIGAタブレットの使い方や管理に問題は？との委員からの質問については、GIGAタブレットには利用制限がかかっており、さらにSNSと同様に指導を行い、使い方は校長間で情報交換を行いながら進めていること、そしてPTAより持ち運び用のバックを購入していただき、破損することなく使用できていることなど問題なく利用されている状況について川上校長先生よりご説明がありました。

前倒しでの導入で、受け入れ準備や効果的な活用方法など先生方のご苦労もございましたと思いますが、対面とオンラインのハイブリットで広がる「新しい時代の新しい学び」に期待しています。



子供たちに寄り添う生活指導

峯 礼子（PTA会長）

多感な思春期の中にいる子供たち。昨今のコロナ禍で、より不安定な情緒のなかにも感じています。学校生活において、子供たちが心身共に安心安全に過ごせるよう、第4回学校運営協議会では高南中の生活指導への取り組み方について協議しました。高南中の「生活指導についての基本方針」を確認し、特に「生徒理解」「情報の共有」「教師の複数対応による組織的な対応」「保護者との連携」を強化していくことを確認しました。

PTA会長として、また一保護者として、子供たちや保護者が安心感を持って学校生活を送るために必要なことを考え、学校運営協議会で思いを共有し、学校運営に関わることができました。

長引くコロナ禍で教育活動に様々な制限がある中、学校・生徒・保護者・地域のコミュニケーションはより重要性を持ちます。お互いが相互理解を深め、信頼関係を築くことが、子供たちに寄り添う生活指導につながるものと確信しています。一年間ありがとうございました。



生徒会の動画づくり

宮内 康子（青少年委員）

青少年委員の主な活動の一つである子ども地域活動

高南中学校 CS だより

(杉並区立高南中学校 学校運営協議会広報紙 令和4年3月発行)

今年度の学校運営協議会

校長 川上 智

委員の皆様には、常に「どのような子供に育てほしいのか」「どのような学校であってほしいのか」を念頭に、「そのためにはどうするのか」を考えご発言をいただきました。高南中とその地域を十分に理解されているが故に「高南中だからこそできること」について沢山のご助言もいただきました。学校の育てたい子供像、目指す学校像の構想を受け止めていただき、委員の皆様にはそのビジョンをもとに、学校に関係するすべての方々と学校が、共に進むための歩みを力強く支援していただきました。この一年間の熟議に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

学校行事の全てが実施できた！

高南中学校学校運営協議会会長 堀内 一男

高南中学校の「学校運営協議会」(コミュニティスクール=CS)は、指定を受けてから2年半になります。この間、多くの卒業生や地域の想いを大切に、コロナ禍を克服し生徒たちが安心・安全に学べる学校づくりに邁進されている先生方に感謝しながら、学校を支援して参りました。

特に今年度は、運動会、修学旅行、合唱祭、スキー教室等々中学校生活の思い出の核になる諸行事の全てが、先生方の工夫とご努力で実施できました。こんな嬉しいことはありません。

学校運営協議会の協議内容の全てを報告できませんが、会の雰囲気を感じ取っていただければ幸いです。



令和3年度 学校運営協議会委員